

ふ え ね 笛の音 第11号

久喜市立郷土資料館だより



展示室の様子



古文書学習会の様子



鷺宮催馬楽神楽伝承教室の様子



非接触型の体温計



消毒液

目

次

- 収蔵資料紹介⑩・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
「鷺宮神社神楽復興趣意書」
- 久喜ゆかりの人物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
高木斐
- 地域史コラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
久喜高校バレーボール部の歴史
- お知らせ情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

郷土資料館では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入館時の人数制限やマスクの着用、手指消毒、社会的距離を保った見学をお願いしています。また、展示室内では常に扇風機などを利用した換気を行い、1日に2回、展示ケースや手すりなどの消毒を行っています。

各種講座の実施にあたっては、距離をとった座席の設定や、非接触型の体温計による参加者の体温チェックを行っています。また、適宜アクリルのパーテーションやビニールシートの仕切りを設け、更に講師の先生にフェイスガードを着用してもらうなど、飛沫感染防止に向けた取り組みを行っています。来館、講座に参加される皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

※入館時のお願いの詳細については
ホームページをご参照ください。



ホームページ

収蔵資料紹介 ⑩ 鷺宮神社神楽復興趣意書

鷺宮神社神楽復興趣意書は昭和30年(1955)11月22日に鷺宮神社神楽復興会の会長である針谷健次氏(鷺宮神社氏子総代会長)並びに名誉会長である相沢正直氏(鷺宮神社宮司)の両名で、神楽復興をすすめるための助力を町民に呼びかけたものです。これによると「当時、鷺宮神社の由緒ある神楽も衰退の一途をたどり、白石国蔵氏(笛、太鼓、舞の三拍子揃ってできる最後の神楽師)を除いてはその正統を継ぐ者がなく憂慮すべき事態であった。そのような中、昭和30年7月26日にNHK職員が鷺宮神社を来訪し、神楽殿において「天の浮橋」と「鎮悪神」の舞の笛を録音して同月31日の朝8時から約30分間(ラジオで)全国放送することがあった。これを機会に(神楽の継承を志す若者に復興への参加を呼びかけたところ)翌8月1日から十余人の若者達がこの神楽復興を決意し、毎夜猛練習して、その成果を10月10日の神社例祭の当日に氏子総代立会のもと公開することができた。しかしまだ全十二座の3



分の1にも至らず、これら若人たちに一層の技術向上を進めさせる必要があり、また、長年放置された楽器の手入や衣装の修理新調、神楽殿の修復等、神楽復興に伴う事業は多岐にわたっており、皆様方の協力なしには成し遂げることができない。このため御協力・御声援をお願いする次第であります。」と結んでいます(()内は筆者補)。この資料からは、一時は断絶の危機にあった鷺宮催馬楽神楽について、昭和30年からその復興に向けて動き出した経緯がうかがえます。

(郷土資料館学芸員 栗原史郎)

久喜ゆかりの人物

高木 棐

明治26年(1893)～昭和39年(1964)

高木棐は清久村大字下清久(現在の久喜市下清久)で生まれ、家は代々医者系の系譜でした。

棐は、昭和12年(1937)に清久村の村長に就任し、同年に南埼玉郡医師会会長にも就任します。昭和20年(1945)には、埼玉県医師会会長にも就きました。

しかし、これらの業績よりもさらに有名なこととして、棐には弓道の業績があります。弓の名人、中りの神様としてのウソのような本当の話です。

例えば、棐が東京帝国大学(東京大学の前身)在学中に始まった京都帝国大学(京都大学の前身)との定期戦で、棐が卒業してしまうことで勝利を危ぶんだ先輩が、棐の母親に頭を下げて卒業を一年延期してくれと頼みこむことで、2年連続の20射皆中をして、見事定期戦を勝利に導いたというのがあります。

また、大学の弓道場に突然訪れた道場破りに、名指しで試合を申し込まれ、直径約36cmの的で6本の勝負をして両者ともに中て続けます。そこで、直径約9cmの的に変えて4本の勝負をした結果、すべて中てた棐が道場破りを返り討ちにしたというのがあります。

このような中り伝説と人間性が反映されたのか、戦後、日本弓道連盟(全日本弓道連盟の前身)の副会長や、全日本学生弓道連盟の会長などの要職にも就きました。全日本弓道連盟編『弓道教本第一巻射法編』の巻頭には、現代弓道の主流となる射法を制定した射法制定委員会委員5人のうちの一人として棐の顔写真が掲載され、その功績が称えられています。

棐が、昭和8年(1933)に市内の自宅敷地内に開設した「洗心洞弓道場」は、ほぼ開設当時のまま建物が維持され、棐が生涯をかけて学んだ本多利實を流祖とする本多流の稽古道場として、現在も本多流の宗家や後進の方々によって利用されています。(文化財保護課 学芸員 堀内 謙一)



高木棐先生射影

(昭和8年、洗心洞弓道場)

久喜高校バレーボール部の歴史



昭和10年(1935)頃の校舎

埼玉県立久喜高等学校(以下、久喜高校)の前身は、大正8年(1919)創立の「久喜町外十五か町村組合立久喜実家高等女学校」です。大正10年(1921)には同校が格上げされ、県内4番目の県立女子高校として「埼玉県立久喜高等女学校」となりました。

久喜高校は創立当時から文武両道に^た長けた女子高として、勉学・部活動の各方面において活躍していますが、中でもバレーボール部の歴史は古く、大正時代から創部されており、数々の功績を残しています。

大正時代の活動の様子については、久喜高校学友会誌『^{むらさき}紫草』に当時の記録や当時顧問を務めていた大熊八重子先生の回想が紹介されており、野外コートで練習を行ったり、東京の高校と練習試合を行うなど活発に活動していた様子がうかがえます。昭和4年(1929)には、戦前の総合競技大会である「明治神宮競技大会」の埼玉県予選を勝ち抜き、本大会に出場しています。



昭和42年(1967)全国高等学校総合体育大会優勝凱旋の様子(久喜市公文書館蔵)

戦後、昭和21年(1946)に埼玉県バレーボール連盟の事務局が久喜高校におかれ、翌年の第1回埼玉県バレーボール総合選手権大会では初優勝を果たします。昭和28年(1953)には第6回全国高校総合体育大会および第8回国民体育大会の両大会において初優勝を果たし、全国1位の座を勝ち取ります。

その後、昭和34年(1959)、昭和42年(1967)においても全国高等学校総合体育大会で優勝を果たします。昭和46年(1971)、春の高校バレー(通称「春高」)の第2回大会では3位に入賞しました。当時のメンバーであった吉田真理子選手は昭和51年(1976)の第21回オリンピックモントリオール大会に出場し、東京オリンピック以来12年ぶりの優勝を果たして金メダルに輝きました。

久喜高校には当時のオリンピック日本チームから寄贈されたフラッグとサイン入りボールが残されています。

(郷土資料館学芸員 星野 諒)



モントリオールオリンピック日本チームのサイン入りボール(埼玉県立久喜高等学校蔵)

空調設備改修工事に伴う休館について

郷土資料館は令和2年10月19日（月）から令和3年1月29日（金）まで、空調設備改修工事のため休館します。工事期間中は電話等によるレファレンスサービスのみ実施いたします。

収蔵資料のくん蒸業務を行いました



ガス投薬作業の様子

郷土資料館では、令和2年9月14日（月）から17日（木）にかけて収蔵資料のくん蒸業務を行いました。くん蒸業務とは、収蔵資料を害虫やカビなどの被害から守るため、収蔵庫内にガス投薬を行うものです。投薬する際はガス漏洩が無いように、養生目張りを行って密閉状態を作り、3日間に渡って投薬・消毒します。

郷土資料館では例年9月頃にくん蒸業務を行っており、その間は全面閉館となります。地域に残された貴重な資料を保存していくための大切な業務ですので、ご理解・ご協力をお願いいたします。



電車で

- 東武伊勢崎線 鷲宮駅下車 徒歩 15分
- JR宇都宮線 東鷲宮駅下車「豊野コミュニティセンター」行きバス「図書館入口」下車 徒歩 2分

自動車で

- 東北自動車道 加須インターから 10分
- 久喜インターから 25分

久喜市立郷土資料館だより

笛の音

第 11 号

発行 令和2年（2020）10月9日

久喜市立郷土資料館

〒340-0217

埼玉県久喜市鷲宮 5-33-1

電話 0480-57-1200

e-mail kyodoshiryokan@city.kuki.lg.jp

URL <http://www.city.kuki.lg.jp/>

開館時間 午前 10 時～午後 6 時

休館日 月曜日（祝日除く）、年末年始、
祝日の翌日、月末金曜日

入館料 無料

※有料の特別展を開催する場合があります